

未来創造みよし塾による公共交通の調査研究と政策実現 ～町内の移動を充実させるデマンド交通～



三芳町政策研究所「三芳町未来創造みよし塾」(三芳町政策推進室)
江田 直也こうだ なおや

1 三芳町未来創造みよし塾の概要

現在地方分権改革が急速に進み、市町村などの基礎自治体においては、国や県に依存せず、独自の責任と判断で、自主性の高い行政経営が求められています。そのような中、三芳町では自治体内の政策形成能力を高め、将来にわたって質の高いサービスを提供し、持続的な発展を遂げるために、平成23年度に自治体内シンクタンクである三芳町政策研究所「三芳町未来創造みよし塾」(以下「政策研究所」という。)を設置いたしました。

この政策研究所では、町から調査研究依頼を受けた特定のテーマ(町が抱えている行政課題など)について、職員研究員・市民研究員・専門アドバイザーで構成されるプロジェクトチームを組織します。テーマによっては複数年度にまたがり調査研究(第3章以下で詳細を記述する公共交通については、平成23年度から平成25年度まで3か年かけて調査研究いたしました。)を行い、町への政策提言を行います。

なお、平成26年度までに政策研究所で調査研究されたテーマは以下のとおりです。

【平成23年度】

- ①自治基本条例
- ②公共交通
- ③観光のまちづくり

【平成24年度】

- ①みどりの保全・活用

- ②日本の里100選「三富新田」再生

- ③公共交通

【平成25年度】

- ①公共交通
- ②日本の里100選「三富新田」再生
- ③芸術文化

【平成26年度】

- ①芸術文化

プロジェクトチームでの調査研究は、会議室の議論だけではなく、町内外問わず現地や先進的な取り組みをしている自治体に視察に飛び出し、研究員の目で直接見て現場を体験し、知見を高めました。また、プロジェクトチームによっては、町民の生の意見をきくためにアンケートや関係者などにヒアリング等を実施し、より町民に望まれる政策提言になるよう努力をいたしました。



平成24年度みどりの保全・活用
プロジェクトの視察の様子



平成24年度三富新田再生プロジェクトの
三富現地視察の様子



平成25年度公共交通プロジェクトの
先進自治体視察の様子

各プロジェクトチームは与えられた期間、じっくりと多角的な観点から調査研究を行い、町に最終提言を行います。政策研究所では、あくまでも調査研究が目的ではなく、町への実効性のある政策提言が最大の目的となっており、この政策提言が政策研究所の成果であり、各プロジェクトが最も力を入れているところになります。また、この成果物たる政策提言を多くの住民が聞くことができるよう、住民に広く開かれた形で毎年発表会を開催するとともに、各プロジェクトチームの政策提言をまとめた報告書を作成し頒布しています。



公民館ホールで行われた
平成25年度最終発表会の様子

政策研究所の最大の特徴を挙げるとするならば、プロジェクトチームには、職員だけで調査研究を行うのではなく、公募による市民研究員、外部の学識経験者である専門アドバイザーもメンバーとして参加していることです。市民研究員が入ることにより、職員だけでは気づくことが難しい、市民目線の多様な意見が政策に反映されます。また、研究テーマに関する外部の学識経験者から専門的知見にもとづくアドバイスをいただきながら、専門性の高い調査研究を実施することができます。そして、政策研究所を通して関わっていただいた市民研究員や学識経験者は、プロジェクトチームが役割を終えて発展的解消を行ったのちも、三芳町の強力な応援団となってくれます。

2 これまでに調査研究された研究テーマ 及び現在取り組んでいるテーマ

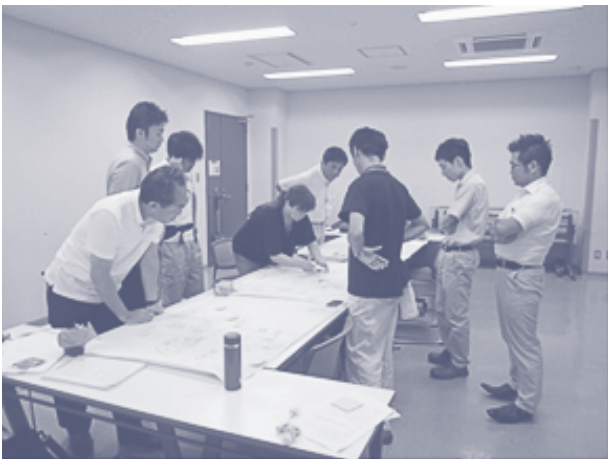
今年度政策研究所が取り組んでいるテーマは、「芸術文化」です。三芳町の限られた財源・資源の中で、地域特性を生かした芸術文化をいかに創造・展開していけるかを研究するため、三芳町芸術文化懇談会及び政策研究所内に芸術文化プロジェクトチームを設置しました。2年をかけ、三芳町の歴史・文化・芸術・生活が一体となった芸術文化薫る豊かな町と

なるには、どのようなことが必要なのかについて研究・討議し、町への提言を示すことにより、町に芸術文化政策をしっかりと位置づけてもらうことが、この三芳町芸術文化懇談会及び芸術文化プロジェクトチームが目指すところです。

町が芸術文化を振興するにあたり、「なぜ町が芸術文化を振興しなくてはならないのか」「それは、芸術文化に携わる人が自由の元に行くことであるべきなのではないか」といったことが、本研究の中でも幾度となく取り上げられました。具体的には、

- ・現在、芸術文化活動に取り組む人たちへの補助をする。
- ・芸術文化に係るイベントを多く開催する。

などといったアイデアが挙がりました。しかし、ただ芸術文化を振興するというだけでは、芸術文化に興味のない人からの理解を得ることは難しく、厳しい財政状況の元、財政支出をする理由としては弱いものとなります。



芸術文化プロジェクトの様子

まずは、その意味付けが重要であるということから、「何のために、町が芸術文化を振興するのか」という点に絞った研究を重ねました。

その結果、芸術文化で「生きる力を育む」こととなり、これは、芸術文化によって心が育成されたり、生活へ潤いがもたらされたりすることを指し、更には人々が“熱”をもって活動をしていくことで、人々

の心や生活がより豊かになり、ひいてはまちづくりにも結びつくものとなると考えました。今年度は、特に会議を重ね対象を絞り込み「子供を中心とした芸術文化」をテーマに、芸術文化ローカルカフェを行い地域の中の声を聞いて、シンポジウム開催につなげていければと考えています。

3 公共交通プロジェクトチームにおいて 提言された提言とその実現

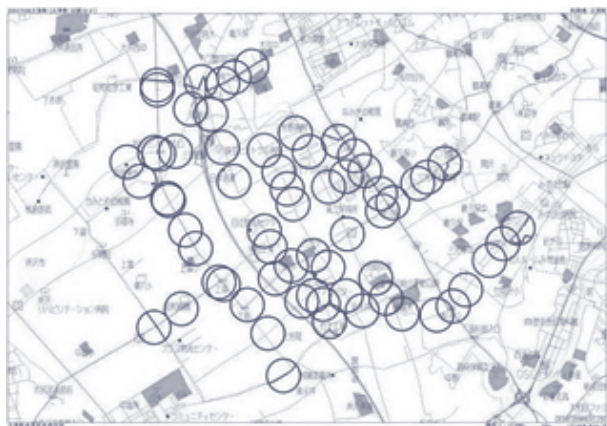
先で述べたとおり、政策研究所ではこれまで、6つテーマの政策研究を行ってきました。その中で取組成果として実行されたものがいくつかあります。

「公共交通」に関しては平成23年度から3年間研究を行い、「三芳町の公共交通のあるべき姿とはどのようなものなのか」「今後三芳町の公共交通に何が必要なのか」「町民が何を求めているのか」「この町にはどんな公共交通システムがっているのか」などについて、現地視察やアンケート、先進自治体視察を交え調査研究をしてまいりました。

3年間の活動内容は以下のとおりです。

【平成23年度】

- ・町の概要（地形、面積、道路状況、人口動向、昼夜人口等）、これまでの関係する計画や施策、住民からの意見要望、議会の公共交通に対する対応などからの課題整理
- ・町内の公共交通網（路線）、バス停留所、運行時刻、便数の調査
- ・町内の交通空白地域の把握
- ・町内の交通空白地域となっている地域への現地調査
- ・人口密度が高い交通空白地域のアンケート調査



町内の交通空白地域把握図



町内の交通空白地域の現地調査

【平成24年度】

- 平成23年度に実施したアンケートの分析
- 通勤通学状況の調査
- 町内の路線バス会社、送迎バスを運行している病院、大学へのヒアリング
- 町内全域の住民アンケート調査
- コミュニティバスとデマンド交通の研究
- 公共交通を運行している自治体調査（経費、利用促進策等）
- 公共交通を運行するまでに必要な許認可、条件の整理
- 公共交通を運行している他市町村の視察（小金井市・小平市、北本市）
- 町内全域アンケート調査

【平成25年度】

- 町内全域アンケートの分析
- 住民の移動傾向を分析
- 公共交通の課題の整理、検討
- 町内の団体へのヒアリング
- 公共交通を運行している他市町の視察（西東京市、戸田市、寄居町、太田市）

そして、これらの調査研究を経て、プロジェクトチームでは、三芳町内の公共交通に関する課題を抽出し、それに対する解決策を、試行運転案である短期計画、町の公共交通の将来像を示す長期計画という形で政策提言いたしました。

短期計画とは、三芳町にあう公共交通を実現するためには、試行運転による検証が不可欠であるとの観点からの試行運転案であり、長期計画とは、町の公共交通の将来像を示すものとなっております。

短期計画及び長期計画の概要は以下のとおりです。

【短期計画（試行運転案）】

※短期計画については、3案を提示

①コミュニティバス 1案

全長7m程度の小型バスによる定時定路線のバス。人口や町の主要な施設が集中する地域を経由して主要駅（2駅）を繋ぐルートである。輸送力が高く、多くの住民を運ぶことができる。



コミュニティバス1案のイメージ

②コミュニティバス 2案

ワゴン車両を使用した定時定路線のバス。コミュニティバス1案同様、人口や町の主要な施設が集中する地域を経由して主要駅（2駅）を繋ぐルートであるが、1案よりも車両が小型であるため、より狭い道路もルートとすることができる。



コミュニティバス2案のイメージ

③デマンド交通案

町内全域を対象として一般的なタクシー車両を使用し、町が設定した乗降場間を結ぶ公共交通機関コミュニティバス1案、2案とは違い、定時定路線で運行する訳ではなく、利用者の需要に応じて運行する。

【長期計画（町の公共交通の将来像）】

長期計画においては、下記5つの項目を基本的な柱として、町の公共交通の10年後の理想の将来像を示した。

- ①町内の移動の充実
- ②公共交通環境の整備
- ③公共交通への住民参画
- ④公共交通の利用促進
- ⑤持続可能な公共交通システム構築

そして、これらの短期計画の政策提言を受けた町執行部は、庁内で平成26年度の試行運転の実施に向け、各案のメリット・デメリットを検討し、庁内

の意見をデマンド交通案にまとめ上げ、その後、三芳町民を中心とする三芳町交通審議会、町内の公共交通関係者で構成される三芳町地域公共交通会議の意見を聞き、承認を得た上で、平成26年度デマンド交通試行運転の実施にいたしました。

公共交通プロジェクトの政策提言を町の政策決定していく過程においては、公共交通プロジェクトチームで行われたアンケート結果や先進自治体視察の結果、調査研究で得られた試行運転に必要な許認可等の知識もフル活用され、多角的な観点から政策実現に至りました。

なお、三芳町地域公共交通会議の設置についても、平成24年度の公共交通プロジェクトの政策提言を受けて、町が平成25年度に設置した機関となります。



地域公共交通会議の様子

4 デマンド交通試行運転

先に述べたとおり、政策研究所公共交通プロジェクトからの試行運転に関する政策提言をもとに、町として平成26年度にデマンド交通試行運転を実施することとなりました。



デマンド交通のぞみカー

デマンド交通「のぞみカー」試行運転事業の主な内容は以下のとおりとなっています。

- デマンド交通の愛称は、町内外から愛称を募集し最終的に「のぞみカー」に決定
- 実施時期は平成26年9月～11月（3ヵ月間）
- 試行運転開始の9月1日には、三芳町役場で出発式を開催
- 共通乗降場間を運行するデマンド交通
共通乗降場は公共施設、病院、商業施設、集会所、駅などに設置
- 運行時間は午前9時から午後6時まで
- 運行地域は町内全域
- 事前に利用登録した町内在住者であれば、原則誰でも利用可能（年齢を問いません）。
- 運賃は1人1回300円
- セダン型車両2台で運行
- 3ヵ月の試行運転実施の後に成果分析を実施



共通乗降場の看板

そして、事業の特徴は以下のとおりと考えています。

- ①住民であれば誰でも利用できます。
- ②町内全域で利用できます。
- ③タクシー車両を用いてバスのような乗合運行をいたします。
- ④タクシー車両を用いるので道路幅が狭い住宅街の中にも入っていくことができます。
- ⑤買い物、通院、公共施設など町内の移動に利用することができます。また町外の駅への移動にも利用できます。
- ⑥3ヵ月の試行運転の後に、成果分析を行います。
成果分析においては、利用状況の確認だけでなく、運行における安全面、他の公共交通機関（バス・タクシー）との連携など各種の観点から検証を行います。

この試行運転により、町内のデマンド交通の需要、住民の移動状況等を把握し、町内の交通弱者の移動の助けになるか、その効果を検証し、将来的な導入の可能性を探ります。

また、試行運転により町内それぞれの地域における町内移動に関する需要を把握し、既存のバスルート再編や新たなコミュニティバスの導入検討にも繋げていければと考えているところです。

5 政策研究所の今後の展望と課題

最後に、政策研究所の今後の展望と課題について述べておきたいと思います。三芳町の政策研究所は、今年度で4年目を迎えます。今まで多くの住民からなる研究員、職員が参加をしてともに研究をして基盤をつくってきました。

これからの政策研究所の役割は、実際に研究した成果による町政への貢献と町全体の政策能力の強化を更に努め、町政に欠かすことのできない組織となるよう活動を深めていくと考えています。